

2021年度地域福祉委員会活動

組合員どうしの助けあい エコ共済

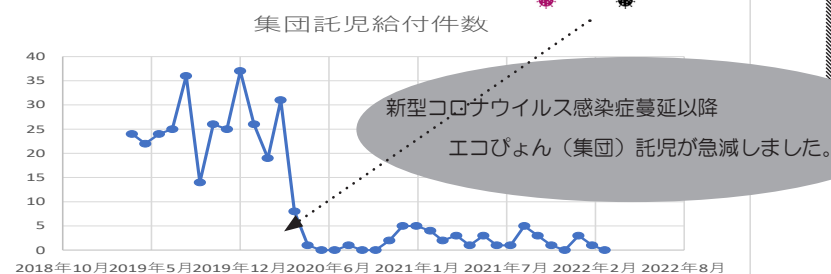


21年度は、前年度に引き続きコロナ禍の影響でエコ共済給付の主力の「エコびよん（集団）託児」が22件（前年28件）と減少し、給付率も低どまりで推移しました。◆一方、組合員どうしのたすけあい（ケア）がメインとなる「生活保障」は、前年から11件増、108.2%と伸びました。♠なかでも10月の制度改定に伴い「子育て支援ケア」（通称：エンジェルス）によるケア5件、また新たな給付例”困ったときの車の乗り合わせ”も2件と生活上、必要とされるケアの利用が進みました。♥エコ共済の加入率は、同時加入の促進で安定した伸びを示し期末時点で79.5%となりました。

給付内訳	昨年度	今年度	前年度比
組合員活動保障	159	222	140%
共同購入活動保障	206	191	93%
生活保障	134	145	108%
福利厚生	714	778	109%
計	1,213	1,336	110%

エリア	加入率
名古屋南	78.5%
名古屋東	80.1%
名古屋北	84.4%
つばさ	77.9%
フルーツバスケット	83.9%
豊田グリーン	79.9%
とよ・おか	85.5%
豊橋	63.9%
その他	40.0%
単協	79.5%

生活保障	昨年度	今年度	前年度比
療養・出産前後・葬儀	48	70	146%
学校行事参加ケア	28	14	50%
リフレッシュケア	58	57	98%
住宅災害時のケア	0	0	
困った時の車の送迎	0	2	
オンラインケア	0	0	
コーディネーター料	0	2	
計	134	145	108%



★エコ共済の給付減（コロナの影響で託児減）を受け、予算を修正し、託児室、保育ルーム「ここいく」に「木のおもちゃ」「絵本」「空気清浄機」を購入しました。

（左）空気清浄機（上左）木のおもちゃ（エジソンのたまご、酒井産業）（上右）絵本
※絵本は保育ルーム「ここいく」が推薦、地域福祉委員会で選定しました。



2021年9月より《たすけあい》Jコースの保障が満30歳までに延長されました

CO-OP 共済

【CO・OP共済ニュース】

CO-OP共済コース別保有件数(2月)

《たすけあい》	
ジュニアコース	1,850
女性コース	1,200
医療コース	1,057
ベーシックコース	13
その他	4
計	4,124
《あいぶらす》	
あいぶらす	599
プラチナ85	175
ゴールド	82
計	856



CO-OP共済
年間目標《たすけあい》320件
に対して261件でした。

累計給付件数・金額(2月まで)	
件数	739
金額	19,596,750

《たすけあい》共済契約引受団体：日本コープ共済生活協同組合連合会・生活クラブ共済事業連合生活協同組合連合会
生活クラブ共済ハグくみ契約引受団体：生活クラブ共済事業連合生活協同組合連合会・生活クラブ生活協同組合（神奈川）
共済に加入するには、出資金を支払い、生活クラブの組合員になることが必要です。

コロナ禍で 寄せられたCO・OP共済への声

外出できず出費がかさみました

自宅療養でも宿泊療養でも外出ができず、準備するものも多く、買い物を人に頼んだりして出費がかさみました。新型コロナウイルス感染症の入院でも共済金の請求ができて助かりました。

【大阪府の組合員より】



入院が思いのほか長引きました

新型コロナウイルス感染症による肺炎が、軽症ではあるのですが、なかなか良くなりませんでした。入院が思いのほか長くなり、生活費がなくなるのを心配しておりました。コープ共済はお守りほどの掛金なのに、安心感は一倍です。

【東京都の組合員より】

お問合せ先：生活クラブ愛知本部
052-899-0770

地域福祉委員会 1年間の活動をふりかえって



「エンジェルス」(子育て支援ケアグループ) 酒井 あけみ(名古屋南エリア)

これまでの2年間の実験取り組みを経て、エンジェルスは2021年10月のエッコロ共済制度改定により正式に本取組みとなりました。21年度までの登録実績は15団体・52名です。22年度は登録人数を88名まで増やし、依頼できる登録小学校区を現状65学区14%から20%を目標に増やしていきます。また事例の蓄積をおこない、事務局への問合せ、報告書をもとに委員会で課題を共有しました(21年度成立事例は27件の問い合わせ中10件の実績でした。)

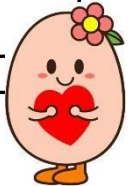
主な活動内容は、7月に「エンジェルス説明会」(7月2回開催、参加計28人)を開催し、すでにケア活動を実践しているエンジェルズグループ「みずいろ」と「チームクローバー」の方から具体的な体験談を聞くことができました。

そのほか9月に「エンジェルズガイド」の作成を行いエリアへ配布しました。エンジェルズのしくみ、エリアでの関わり方についてそれぞれ意見交換をすることができました。



「介護講座」 森崎 典子(名古屋南エリア)

11月に単協地域福祉委員会主催「介護講座(基礎編)」を開催・受講しました。認知症サポーター養成講座と同開催の欲張りな講座でしたが、介護保険の基礎知識と、認知症への理解を関連付けながら一緒に考えることの出来る良い機会になりました。ただ質疑応答の時間がほとんど無く、疑問点などをその場で話せなかったという課題はあったかもしれません。同じ月に名古屋南エリア主催「介護保険とは(行政サービスの使い方)」をオンライン・名古屋センター参加併用で開催しました。オンライン参加者が10人弱、Zoom画面からの質問もしやすい人数だったのでは、と思います。名古屋市の行政に特化したお話・質問となりましたが、応用編の受講者ということもあってか、介護経験に基づいた質問が多く出され、実際に役立つ知識が得られたと感じました。



「ハグみんカフェ」 小山 真紀(とよ・おかエリア)

ハグみんカフェは、前半に「ライフプラン講座」、後半には組合員同士の交流や共済について情報交換する「カフェタイム」の2部構成になっている名物企画です。毎年多くの参加がありますが、新型コロナウイルス感染症の蔓延でも中止にならないよう、今年度は夏・冬に2回ずつオンラインで開催しました。

オンライン開催にしたことで、会場までの移動の手間がなく、複数回参加できた人もいました。カフェタイムの時間が十分に作れなかったことで、共済の情報を伝えられなかったなど進行に反省点はありましたが、学びや交流の機会を作ることができてよかったと思います。お茶とお菓子を囲みながらの「カフェタイム」が再開できる世の中に早く戻るといいなと思います。

「まちを知る活動」 長友 美由紀(名古屋北エリア)

この1年まちを知る活動をテーマに理事会主催の「まちづくり」企画(第1弾~第5弾)ワークショップを開催、また「まちづくり」連続講座の一部として「まちづくり活動に伴う資金づくり~ーから始めるクラウドファンディング」を日本ファンドレイジング協会の久保匠講師をお招きし実施しました。

「まちづくり・居場所づくり」の活動をしている組合員の誰にも聞けない、どうしたらよいか考えている資金づくりの過程と実体験等を実参加・Zoomにて講師の方から話しを聞く事が出来ました。

来年度は実参加にて組合員のみなさんに会うことができる事を願っています。



「認知症サポーター養成講座」 近藤 裕美(豊橋エリア)

今まで受講して下さった皆さんの意見を集約して、年度初めから、介護保険講座とともに見直してきた、認知症サポーター養成講座。11月に新しい認知症サポーター養成講座を開催することができました。認知症サポーター講座を受講すると、「認知症についての勉強をしましたよ」という証のオレンジリングがもらえます。一度勉強したから大丈夫。オレンジリングって1度しかもらえないから1回だけしか受講できない。と思われがちですが…何度でも受講は可能です。認知症に関する情報は、日々変わっています。定期的に受講して、最新の認知症に関する情報を手に入れていくことも、認知症サポーターには必要なことです。ワークスコレクティブ愛・Iさんが行う、認知症サポーター養成講座はオンライン受講も可能です。まだまだ続くコロナ禍だからこそ、上手に活用してたすけあいの輪・認知症理解の輪を広げていきましょう♪



「くらしの見直し講演会」 志賀 敬子(つばさエリア)

12月7日 3年ぶりにくらしの見直し講演会を開催しました!テーマは、まちづくりにおける資金作り。お金にばかり焦点がいきそうな題名ですが、いかに共感を得ていくか?活動を継続するために必要な資金を、どうやって賄うのか?といった、生活クラブの活動そのものにも直結するお話でした。生活クラブを飛び出して、まちづくりの1歩を踏み出している方には、「今躓いている部分の課題が見えた」と好評だったのは勿論、他の方からも「全ての活動に通じるものがあった。参加して良かった」との声を多く頂きました。なお、今回はコロナ禍ということもあり、初の試みであるオンラインを併用した形式で行いました。参加者は、現地28人。オンライン18人。課題もありましたが、どこからでも参加ができるオンラインの利点を活かし、来場が難しい方も多く参加されました。